



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

Time

Trade-off法による糖尿病患者の健康状態の評価に関する臨床的研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 足立, 久子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12099/2827">http://hdl.handle.net/20.500.12099/2827</a>

## はしがき

医療技術の進歩、食生活の改善、公衆衛生の改良にともない感染症患者は減少してきました。しかしながら、近年、高齢化、ストレスフルな社会、高脂肪・高カロリーの欧米化した食生活などが誘因となり、高血圧、脳血管障害、心筋梗塞や狭心症の虚血性心疾患、糖尿病などの慢性疾患患者が増えてきました。今後、国内外ともにさらに増加していくことが予測されています。

慢性疾患の治療効果は、外科的疾患や感染症に比べて顕著ではありません。慢性疾患患者は、完全に治癒することのない病気とともに長く生活をしていかなければなりません。そのため、慢性疾患患者は、どのようにしたらより、良い生活を過ごすことができるのか、医療者は問われることとなります。

虚血性心疾患、脳血管障害などの他の慢性疾患患者と異なり、糖尿病患者は、糖尿病患者の合併症の発症を予防するために、食事・運動・薬物療法などの自己管理を生涯にわたって継続しなければなりません。糖尿病患者の眼、腎臓、神経に生じる合併症の発症は、患者の生活の質(Quality of Life : 以後、QOL と略記)を明らかに低下させます。

病状を悪化させ、糖尿病の合併症を発症させるか否かは、患者自身の自己管理しだいであると言っても過言ではありません。運動療法は、必ずしも毎日行わなければならないという治療法ではありません。しかし、食事療法は、限られたカロリー内で、糖分、脂質などの各成分に片寄りのないバランスのとれた食事を毎日毎食続けなければなりません。治癒することのない糖尿病という病気とこのような自己管理は、患者の身体的、社会的、精神的機能状態を制限する可能性が高く、糖尿病患者は疾患以前の生活に戻ることは難しくなると予測されます。糖尿病患者は、新たに生活の再構築を図らなくてはなりません。どのように生活を再構築するかは、患者自身の自己の健康についての認知や評価が重要な要因となると考えられます。

本研究では、健康状態を総体的に評価する Time Trade-Off 法を用いて、通院中の糖尿病患者は、健康状態をどのように評価しているのかを問題としました。

Torrance et al.(1972)により開発された Time Trade-Off(TTO)法では、慢性疾患患者

は、今後も現在の健康状態のまま過ごしたいのか、あるいは余命が短くなっても健康に障害のない状態で過ごしたいのか、どちらを選択するか問いかけます。前者を選択した場合、健康状態の評価は後者を選択したときよりも高くなります。

そこで、本研究では、通院中の糖尿病患者は、今後生きるかもしれない期間(年数)に関して、どのようなときに、今後も現在の健康状態のまま過ごしたいとするのか、あるいは平均余命は短くなるが健康に障害のない状態で過ごしたいとするのか、その要因を明らかにすることを目的としました。

この点を明らかにすることにより、糖尿病患者の健康状態の向上と再構築のために、どのような看護が必要とされるのか、その手掛かりを得ることができると考えられます。しかしながら、検討すべき残された課題もあります。例えば、研究協力者である糖尿病患者の9割以上が2型糖尿病患者であり、1型糖尿病患者が少なく糖尿病タイプが健康状態の評価に与える影響について検討できなかったことも、そのひとつです。

今後の研究のために、本研究に関してご指導、ご助言を頂ければ幸いです。成果は、必ず看護に有効な知見を提供するものと考えています。

最後に、本研究は外来通院中の患者の皆様、病院関係者の皆様のご協力なくしては行うことができませんでした。研究に快くご協力いただいた患者の皆様、忙しいなかご協力いただいた病院関係者の皆様には、心より深く感謝いたします。

平成18年3月 研究代表者 足立 久子